

本格的な夏が到来しています。

いかがお過ごしですか。

岐阜以西の西日本各地は未曾有の大水害と直面しています。

人工林の山を手入れしている小さな経験ではありますが、自然に手を入れると予想できない破壊を見ることが度々あります。それまで何ともなかった斜面に、伐採・整理のために踏み込んだり道をつけたりすると、少しの雨でも、その箇所だけが崩れてしまうのです。

そんなことと思ひ合わせ、今度の災害の報道を見ると、人が自然（地形や植生など）に、欲やおごりをもって対してきた結果なのではなかろうか、と思われてなりません。

自然に手を加えようとするなら、慎重なうえにも慎重な、できればむやみに手を入れないことが求められているのではないか、日曜日にはそんな話をしながら相生山の森を歩いていました。

「相生山の四季を歩く会」7月定例会の配布資料を同封します。8月はお休みのため、その間に目を通していただこうと、いつもの【B＝バイオーム、S＝サクセッション、F＝フードチェーン】の図を2面に入れました。

名古屋市の動きや市民に問われている課題も提起しました。ご一読、ご一考いただければ幸いです。

2018年7月10日

相生山の四季を歩く会 事務局 古川善嗣

携帯電話：080-5124-6463